



# 大人が絵本を 第54回 いま、韓国が熱い!!



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*

小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

\* 絵本と図鑑の親子ライブラリー Bibli Kids (福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

## 日本と韓国の関係にズームイン

慰安婦問題、徴用問題、竹島問題と、韓国と日本の関係に不穏な空気が流れている中、「韓国海軍レーダー照射」というニュースが2018年の年の瀬に飛び込み、年末年始にかけて政界は物々しい動きをみせました。日韓の政府による事実調査のやりとりは平行線のまま、協議打ち切りが表明され、私たちに残されたのは不安です。

日韓関係の悪化が危惧される一方で、身近なところに目を落としてみると、韓国からの訪日観光客は増加し、今、韓国では日本食がブームといますし、日本は第3次韓流ブームにあります<sup>1) 2)</sup>。国家間の関係に影響されることなく、国民は互いの国の魅力に惹かれて愛好し、友好ムードにあるようです。

では、絵本の世界に視点を転じてみましょう。日本の児童書が海外で翻訳出版され、広範囲な大陸に渡っている昨今、国・地域別でみたとき、日本の作品を最も多く翻訳出版しているのは、出版件数2,177件の韓国で、次いで台湾(1,206件)、中国(537件)と、上位3位をアジアの国・地域が占め、アメリカ、フランスと続きます<sup>3)</sup>。トップスリーに連なった国・地域の出版数値は、順位をひとつ上げるとその件数がほぼ倍に伸びていて、なかでも突出している韓国で、日本文化が受け入れられていることを感じます。

また、韓国の絵本も、日本での翻訳出版が2003年以降、急激に伸びている実態にあります<sup>4)</sup>。絵本の世界、子どもの世界、子どもと大人の文化圏での日本と韓国は、お互いの価値を認め合い、尊重して、受け入れ合う良好な関係を築いていることが窺え

ます。

## 現代アートを切り拓くのは、いたずら作家

韓国で今、注目されている絵本作家をご存知でしょうか。デビュー作となる『ふわふわくもパン』(原題『구름빵』)で、2005年ボローニャ国際絵本原画展に入賞したベク・ヒナ女史です。瞬く間に、8言語に翻訳され、今40万部を記録しています<sup>5)</sup>。彼女の2作目となる絵本がこちら、邦訳タイトル『天女銭湯』です。

『天女銭湯』  
ベク・ヒナ 作  
長谷川義史 訳  
(プロンズ新社)



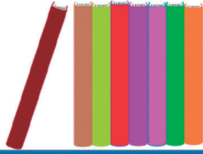
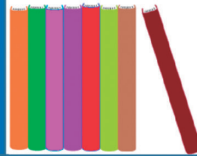
このインパクトある表紙をただで、興味をそえられる『장수탕 선녀님』は本国で出版後、「韓国出版文化賞」など多数の推薦図書となり、15万部以上のヒットを記録しているのです。「絵本」といってもその手法は描画ではなく、自称「人形いたずら作家」にうかがえたとおり、スカルピー粘土という素材を使って何体もの人形や家具などの小道具を作って、作者自ら撮影した写真絵本なのです。

日本語版の訳者は、出身地の方言を生かして『大阪うまいものうた』など大阪弁の絵本を多数創作している長谷川義史氏でして、なんとハングル文字を関西弁で翻訳したのです。これがまた、粘土細工で作られた天女のインパクトをより強固なものにしています。

ベク氏は、「韓国語でも、ソウルの標準語よりも釜山の方言のほうがあったかい、可愛らしく聞こえる、それと似たような効果があって、心がほっこり

# 手にするときは！

## 加速する日韓の絵本ブーム



企画 濱野 良彦  
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



するような表現」と長谷川氏の関西弁訳を評しています<sup>5)</sup>。なるほど、ペク氏の方言翻訳の解釈は、『ぼちぼちいこか』(偕成社)の関西弁訳に癒される理由が腑に落ちます。

ペク・ヒナ氏の最新作『알사탕』は、本国では発売から1年で10万部を越す大ヒットとなった作品で、日本語訳『あめだま』は、もちろん長谷川氏による関西弁訳となっている今、注目の一冊です。



### 韓国絵本の開拓者 日本の作家に影響される

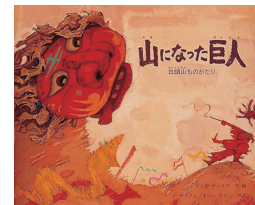
韓国で、本格的な独自の「絵本」が出版されたのは、ソウルオリンピックのあった1988年のこと、日本は昭和時代の終わりで、その翌年、平成時代に移り変わったときです。韓国初の創作絵本は、2年後の1990年に『山になった巨人：白頭山ものがたり』という日本語タイトルで、福音館書店より出版されました。

韓国の絵本文化を拓く祖となった作家は、リュウ・チェスウ氏で、1984年にユネスコ・アジア日本センター主催のワークショップに参加したことがきっかけで、講師であった田島征三氏に影響を受けて絵本を描き始めるのです<sup>6)</sup>。異彩を放つ双子の絵本作家で名高い田島兄弟の弟・征三氏は、生命、自然、平和を力強いタッチで訴え続ける絵本作家で、昨今、日本と韓国、中国の平和の架け橋ともなったキーマンです。

そして、もう一人、日本に韓国絵本を紹介した日本人は、福音館書店の編集者であり、のちに社長となった松居直氏その人です。『山になった巨人』の日本語版制作にあたっては、原画から新規に製版を行うなど、より原画の魅力に近づくよう、松居氏の努力が払われているのです<sup>4)</sup>。韓国の絵本が世界に評



『山になった巨人：白頭山ものがたり』  
リュウ・チェスウ 文・絵  
李相琴、松居直 共訳  
(福音館書店)



価されるようになった裏には、絵本作家の努力だけでなく、韓国の出版社が日本の絵本の詳細な研究を行ったり、また自国の作家の育成と作品制作に情熱を傾けたりした満身創痍の力が働いています<sup>3)</sup>。そこには、日本の絵本文化の力が、陰に日向に影響しているというわけです。同じアジア文化圏で、互いに切磋琢磨しながら、アジアの絵本を世界に轟かせていきたいものです。



### 絵本の芽、一気に開花し、大輪となる

絵本の歴史わずか30年の韓国ですが、しかし、その短期間で飛躍的な発展を遂げ、今、国際的に注目を浴び、評価されるようになりました。

絵本文化が創生してからの数年は、トピックは生まれず、日本をはじめとする外国の翻訳出版が競うようになされていました。そして、1990年代後半、いよいよ韓国絵本の幕開けが訪れるのです。そのベルを鳴らした絵本こそ、日本において韓国絵本の代表格となっている『マンヒのいえ』(クォン・ユンドク作)や『ソリちゃんのチュソク』(イ・オクベ作)で、独自の創作絵本が隆盛を始めます。

このような経緯をもつ韓国絵本の大きな特徴は、自国の伝統文化に根付いた題材にあります。日本で紹介されてきた韓国絵本は、確かに衣食住と独自の伝統文化がテーマとなっていることに気付かれると思いますが、そのような時代を超えて、今、ニューウェーブ



と呼ばれる新たな文化の発展を遂げているのです。

その新しい力がベク・ヒナ氏であり、デザイナー出身のオ・ジョンテク氏でして、彼らに代表されるように、表現技法が多様化し、絵本のテーマを見てもそれまでの伝統文化の類から、自然や環境、家族、人権、平和などと拡大し、韓国絵本の世界に全く新しい風が吹いているのです。

### 「世界最高峰の賞」を総なめ

自国独自の絵本文化が歩を踏み出して16年目の2004年に、絵本の世界最高峰の賞の一つであるポローニャ・ラガッツィ賞に韓国絵本が入選し、世界の絵本と肩を並べる時が早々に訪れたのです。韓国人初の受賞者はユン・ミスク氏で、受賞作の邦題『あずきがゆばあさんとトラ』は日本でも紹介されています。

ラガッツィ賞は、1964年にイタリアで始まったポローニャ国際絵本原画展が1966年から主催してきた賞で、一年間に出版された全世界の子ども向けの本を対象に、内容、デザイン、創造性などを評価し、大賞と優秀賞を選定するものです。

初受賞の翌年には、前述のベク・ヒナ作品が続き、2014年までに『こころの家』(原題『마음의 집』イヴォナ・フミエレフスカ作)など3点が大賞、8点が優秀賞に選ばれました。そして2015年、ついにラガッツィ賞5部門すべてで、韓国絵本が優秀賞に選ばれるという快挙を成したのです。

世界40余か国から1455点の応募があった同年は、フィクション、ノンフィクション、ニューホライズン(第3世界対象)、新人賞、ブック&シーズ(農業、飢餓、生物多様性)の5部門で開催され、優秀賞は各部門で3~5点ずつ選出の選考方式でしたが、全部門に韓国の絵本が並んだのです<sup>7)</sup>。韓国が国をあげて沸き上がったのは言うまでもありません。30年弱という韓国の絵本文化史において、目を見張る快進撃です。世界のトップレベルに上がってきたと言え

るでしょう。

### 歴史をみつめる。後世に伝える。「平和」

日本と韓国の関係を語るとき、避けて通られないのは日本の統治時代という史実です。1910年から1945年のその間、朝鮮では日本の子どもたちの本が多く流通し、1930年代には日本語と朝鮮語が併用された児童雑誌も出版されました。「日韓の特殊な関係の狭間に生まれた韓国の子どもの本の歴史は、日本との関係を抜きに考察することはできない<sup>3)</sup>と、韓国絵本の日本語翻訳家であり、韓国でも「架け橋の役割を果たした主人公<sup>4)</sup>と評されている大竹聖美氏が論じています。

このような歴史的背景を見つめて、田島征三氏と浜田桂子氏、和歌山静子氏、そして田畑精一氏4人の著名な日本人作家が、中国、韓国の絵本作家に呼びかけて2007年に日中韓総勢11人で共同の、平和をテーマにした「日・中・韓平和絵本」プロジェクトが始まったのです<sup>8)</sup>。日本での第1作となる『へいわってどんなこと?』(浜田桂子作)が2011年に発行されてから順次、3か国の作家11人により創られた絵本は、日本国内でも出版されたのですが、韓国で2010年に出版されたクォン・ユンドク作『花ばあば』の1作だけが、日本で刊行できていませんでした。

『花ばあば』は従軍慰安婦がテーマで、実際の証言を元に、少女が心や体に傷を負い、受けた悲しみや恐怖を描いたお話です。韓国で出版された後、日本でも出版準備が進められていましたが、証言者の話す連行場所が公文書と違う点を指摘されたのです<sup>9)</sup>。日本の出版社に修正依頼を受けた作者のクォン氏でしたが、このとき、既に証言者は没していたため、自ら事実調査に当たって史料と異なる点を確認することになりました。そして、証言女性のためにも描き直しを決意し、完成した改訂版は、「作品そのものの雰囲気も変化し、優しさと悲しさに満ちた」平和絵本となって、韓国と中国で2015年に発行されるのですが、それ



『花ばあば』  
クォン・ユンドク 絵・文  
桑畑優香 訳  
(ころから)

でも日本版は依然、出版未定のままでした<sup>9)</sup>。

出版準備の裏で、特定勢力の圧力がかったという報告もありますが、日本という国が戦争の歴史になると、原爆など受けた被害を歴史教育に残し、一方で教科書から従軍慰安婦の記述を削除するなど、加害の立場を隠す気質にあることにも影響されているでしょう。



## 平和の架け橋となる絵本と、絵本作家

「日・中・韓平和絵本」シリーズの一作だけが日本で刊行されていないことに、作者と同じく心を痛めていたのは、呼びかけ人である田島征三氏ら日本の作家たちでした。お蔵入りの危機もあった『花ばあば』でしたが、呼びかけ人の草の根を分けた活動と、クラウドファンディングによる市民の後押しを受けて、昨年2018年5月とうとう日本語翻訳絵本が東京都赤羽の小さな出版社「ころから」より発行されたのです<sup>9)</sup>。

本国での出版から実に8年を経て、「日本人が踏みつけて来た中国、韓国で活躍する絵本作家たちと一緒に、平和絵本を作ろう<sup>8)</sup>」と呼びかけ始めてから14年、その願いが形として揃ったのでした。

「日本で出版できないのではないかとの産みの苦しみを味わっていた<sup>10)</sup>というクォン氏は、「『慰安婦』問題の責任をひとりひとりの具体的な個人ではなく、彼らを指揮し、扇動した国家と支配勢力に問うべき」という意味を込めている」と、日本版のあとがきで綴っています<sup>10)</sup>。日本、中国、韓国の平和の架け橋となったのは、田島征三氏ら日本の絵本作家たちなのです。



## 国家間をまたいで。世界を知る絵本たち

私たち大人には、『花ばあば』をはじめとする平和

絵本を子どもたちと後世に伝える責務があります。決して、目を背けてはなりませんし、子どもたちの目から遠ざけてもなりません。それが、平和を考え、平和な世の中を構築していく手がかりだからです。

良い絵本こそ、時代を超えて読み継がれていくものです。アジアの大人たちの願いを乗せて、「日・中・韓平和絵本」シリーズが100年後の世の中に語り継がれていることを願います。そして、平和な世の中であることを願ってやみません。

他国の絵本を読むことは、その国の文化理解に繋がります。韓国に伝統文化の絵本が多いように、各国の絵本にはお国柄が反映されています。様々な国の文化事情を知ること、また楽しいものです。国家間で相手国を威圧するより先に知ってほしいこと、考えてほしいことがあります。大人にも子どもにも考える機会と想像するきっかけを与えてくれるのは、絵本なのです。



## 文献

- 1) ソウル聯合ニュース：韓国人の海外旅行先検索 日本が不動の1位, YONHAP NEWS AGENCY 2018.12.5 HP <https://jp.yna.co.kr>
- 2) ヨダエリ：第3次韓流ブーム, 日経トレンドネット 2018.5.2 HP <https://trendy.nikkeibp.co.jp>
- 3) 国際子ども図書館：子どもの本 海を渡る 第一部 出版の塔, 国際子ども図書館 HP <http://www.kodomo.go.jp>
- 4) 齊木恭子：日本語版韓国絵本の現状, 北東アジア文化研究/鳥取看護大学・鳥取短期大学 (27), p.23-44, 2008.
- 5) 加賀直樹：耳をすませば愛の言葉が聞こえてくる『あめだま』が韓国で大人気の絵本作家ベク・ヒナさん, 好書好日 HP <https://bookasahi.com> 2018.10.15
- 6) 大竹聖美：韓国の子どもの本の現在(シリーズ・いま、世界の子どもの本は？第3回), 国際子ども図書館講演記録 平成23年1月22日, 国際子ども図書館 HP <http://www.kodomo.go.jp>
- 7) 在日本大韓民国民団：韓国、全5部門で優秀賞, 民団新聞 2015.3.4 MINDAN HP <http://www.mindan.org>
- 8) 浜田佳子：『へいわって どんなんこと？』日中韓の作家が、国境を越え、出会いを育んだ平和絵本で伝えたかったこと, KOKOCARA (生協パルシステム) HP <https://kokocara.pal-system.co.jp> 2018.8.6
- 9) 玖保樹鈴：「慰安婦」被害者を描いた絵本『花ばあば』が日本で出版, 週刊金曜日 (1196), p.18-19, 2018.
- 10) クォン・ユンドク作, 桑畑優香 訳：花ばあば, ころから, 東京, 2018.